

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
1 基本的な生活習慣を身につけ、自己の研鑽に努め信仰の薫育、奉仕の精神を養うとともに「公德心」を育成する。	① 合掌と讃歌、瞑想の朝礼礼拝を行い、一日の学びの始まりに心を落ち着かせ、自分を見つめる。朝礼時の担任から生徒への語りかけは薫習の場とする。	宗教科 学担会 総務	「自分自身を見つめる」時間となっている A よくあてはまる 52% B まあまああてはまる 42% C あまりあてはまらない 5% D あてはまらない 1%	C・D評価が10%以上 においては、内容を検討する。 <b>A</b>	中間調査と比較すると、A回答で1年生5%/2年生11%/3年生9%と大きく意識の変化が伺えた。コロナ禍の中、3年生はマスクをはずすことなく朝礼礼拝を勤め、先生方も朝の生徒達の素顔を見れることなく向き合っていた。その状況での回答値に改めてS・H(朝礼礼拝)の大切さを実感し、気持ち新たに4月からの朝礼礼拝を迎えたい。
	② 宗教の授業や宗教行事(花まつり、報恩講)を通して、自己の内面を省みる。	宗教科	自分の内面を省みて生き方を考える時間となった A よくあてはまる 42% B まあまああてはまる 49% C あまりあてはまらない 8% D あてはまらない 1%	C・D評価が15%以上 においては、内容を検討する。 <b>B</b>	宗教教育は本校の根幹となる心の教育として大切に向き合い、行事においては今年度も分散開催での実施となった。各行事では親鸞聖人にまつわる歴史のエピソードを寸劇で親しみやすく伝え、それに関連して現在の私たちの取り巻く状況も踏まえて、自分自身を見つめる内容のものとしている。
	③ 本校の根幹である宗教教育についての認識を深める研修の機会を持つ。	宗教科 第1学年 第2学年	宗教教育の認識を深める有意義な研修となった A よくあてはまる 63% B まあまああてはまる 28% C あまりあてはまらない 3% D あてはまらない 2% E 参加していない 4%	C・D評価が15%以上 においては、内容を検討する。 <b>A</b>	今年度の上山研修では、延期実施となっていた2年生と1年生が同年度に実施することとなった。またコロナ禍を踏まえ受入側の意向もあり、分散、宿泊なしの日帰りとなった。限られた日程時間の中で、主要目的の講義の内容が生徒の心に届くものであったと思う。また、隊別に行った事前指導がより効果的なものとなった。
	④ 基本的な生活習慣の定着を目指し、生徒の心に届くよう、我々教師が率先垂範を心掛ける。また、自己肯定感を養い、生徒の心に火をつける指導を目指す。	総務 教務 生徒指導	規範意識や基本的な生活習慣を身につける学校生活を A 十分定着し取組んでいる。 60% B まあまあ定着し取組んでいる 35% C あまり定着せず取組めていない 5% D 取組めていない 0%	C・D評価が15%以上 で指導体制を強化する。 <b>A</b>	基本的な生活習慣の回答項目(挨拶・時間厳守・身なり・規則正しい生活)の平均値で評価した。今日の社会規範の動揺や価値観の多様化など、少なからず生徒達にも影響があるように感じている。その現状を踏まえ高校は社会に育る最後の教育機関と捉え、規範意識は集団の中で学び育まれるものと認識し、焦らず育む指導に務めていきたい。
	⑤ 掃除は共に学ぶ場の確認であり場への尊敬である。「掃除は自分たちの生活の答案である」と伝え奉仕と思いやりの心を育む。	総務 生徒会 生徒指導	普段の清掃活動についてどう思いますか? A 綺麗に行き届いている 46% B まあまあ行き届いている 48% C あまり行き届いていない 5% D 行き届いていない 1%	C・D判定が25%以上 において内容を検討する。 <b>B</b>	前期調査では「掃除に取り組む姿勢」C+Dで12%、後期調査では清掃を振り返り「活動状況」に問いかけた。学期末には大掃除を実施し生徒達への意識の醸成を試みたが、やはり普段からの活動が重要と感じている。これからも掃除活動にも目を向け認めながら、共有する場への「奉仕のこころ」を育む指導を大切にしていきたい。
	⑥ 幅広い読書を意欲的に行うことで、思考と情操を深め、自らの人格形成に生かす生徒の育成を図る。	図書館 国語科 総務	読書週間を通じて、読書に親しむ習慣は増えましたか? A とても増えた 38% B まあまあ増えた 37% C 変わらない 23% D ない 2%	D判定は意欲を促進 する内容と活動を検討する。 <b>A</b>	前期では読書週間など啓発活動を踏まえ「読書に親しむ習慣がありますか?」と問いかけ、残念ながらC「あまりない」29%、D「ない」18%の回答であった。後期は「読書する習慣は増えましたか?」と問いかけ、A「とても増えた」と38%の回答が得られた。読書は「新たな感性を見つけ出す」良い機会だと伝え習慣となるよう今後も見守りたい。
1 学校関係者評価委員会の評価	朝礼礼拝の大切さを先生方が実感出来たことが素晴らしく、新年度のS.Hがより良いものになることを期待します。予測もできないコロナ禍において本校の特色ある宗教教育で、色々な工夫と細かい配慮で大事な定例行事である「上山研修」を行えたことは大変良かったと思う。人として基本的な事をしっかりと身につけさせる内容だと感じているし、生徒ひとり一人が、その意味をしっかりと理解して取り組んでくれたことにうれしく思う。また、ウイズコロナの取組みの中で発声を抑制されたことから、以前と比べて挨拶が少し弱くなったようにも感じる。ウイズコロナをさらに進めながら本来の日常を取り戻し、目指す教育活動と指導をさらに充実したものになるよう期待する。また、清掃(奉仕活動)の意義を理解し主体的な取り組みとなようご指導をお願いします。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
2 科・コースごとの目標に沿った「学びの保障」を目指し、指導力の向上に努め、生徒一人ひとりの進路実現に対する個別指導を重視し、学習意欲の涵養に努める。	① 各教科において、興味、関心、意欲を引き出す授業の確立に向けて、教材の精選と指導法の工夫改善に努める。	教務(研究) 教科	授業の工夫を実感している生徒の割合 A よく工夫されている 44% B まあまあ工夫されている 48% C あまり工夫されていない 7% D 工夫されていない 1%	C・D判定が25%以上において教務課を中心に改善策を検討する。 <b>B</b>	前期と比較して、2・3年生のA「よく工夫されている」に大きく改善がみられた。1年生はさほど変化はなく、まだ進路への目標が明確ではないのかもしれない。2・3年生は進路実現を目指す強い意思が授業への取組む姿勢となり、教科指導の評価に繋がったように推測できる。これからも進路指導と重ねて、授業互見や自己研修を重ね、生徒達の要望に答えられるよう努めていきたい。
	② 生徒達の「学びの保障」の実現に向け、指導力の充実を目指し自己研鑽に励む。	教務 教科	指導力向上を目指し自己研鑽に励んだ A よくあてはまる 8% B まあまああてはまる 82% C あまりあてはまらない 10% D あてはまらない 0%	D判定が30%以上で実施の内容、指導方法を検討する。 <b>B</b>	先生方のアンケートから、リモートでの研修講座やアプリ等での教材研究等が充実しており、それぞれに自己研鑽に励んでいる回答が多かった。また、職員研修ではICT活用授業の実践例を求める声も多かった。これからも「学びの保障」に努め、自己のスキルアップを目指し実践力を発揮して頂きたい。
	③ 普通科の教養、ビジネス、進学特進の各コースと体育科の特色あるカリキュラムがより顕在化するよう研究と指導に励む。	教務 各コース	各科、コースの取り組みについての自己評価 A 意欲的に取組めた 52% B まあまあ取組めた 43% C あまり取組めなかった 5% D 取組めなかった 0%	C・D評価が25%以上において内容を検討する。 <b>A</b>	後期は「各科、コースの特色ある教育への取組について」問いかけた。特に2年生ではA「意欲的に取組めた」に57%の回答が見られ、コースが目指す意図を理解し各検定取得へのモチベーションとなり取得率にも大きく現れてきた。さらに生徒達の思いに応えられるよう、特色をより顕在化となるよう進めていきたい。
	④ 各学年において、一貫したキャリア教育を通して、職業観や勤労意欲の育成に努め、よりよい進路選択の一助とする。	進学 就職	実施された進路指導(進学・就職)が A とても役立つ 52% B まあまあ役立つ 40% C あまり役立つなかった 6% D 分からない 3%	C・D評価が25%以上において内容を検討する。 <b>A</b>	A「とても役立つ」と2年生で59%、3年生が55%と高い回答が得られ、Aの50%超は調査実施後初めての値である。一・二年生はコロナの影響でガイダンスが延期となり(3/10開催)、回答時に反映されている中の値である。これからも「進学・就職」双方のガイダンスがより充実したものとなるよう、フィードバックを繰返し検討を重ねていきたい。
	⑤ 「総合的な探究」の時間において、各コース、科の進路指導について立案・実行し、H担任の面接指導や試験の事後指導で自己実現に向け意識を高める。	教務 学年	進路指導において担任との面談が A とても役立つ 53% B まあまあ役立つ 40% C あまり役立つなかった 4% D 分からない 3%	C・Dのいずれかの回答が25%以上の場合、面談の回数・あり方を検討する。 <b>A</b>	9割の生徒が担任との進路指導が有効であると回答があり、進学・就職を問わず上級学年ほど高い値となった。近年、選考方法の多様化を背景に担任の進路指導の重要性が益々高まってきている。これからも各指導課、科コースでの情報を共有し合い組織的な支援体制のもと、効果的なホーム担任のバックアップを心掛けていきたい。
2 学校関係者評価委員会の評価		進学・就職指導のどちらにおいても、生徒達の人生を大きく左右される中で、Aの50%超えはとても素晴らしいし、個々の生徒のことを考えて指導されているように感じる。しかし、①②においてはB判定となっていることから、これからも先生方の自己研鑽に励む姿に期待している。			

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
3 地域に根ざした学校であることを認識し、生徒・保護者・教職員そして地域の方々の四者が、敬愛と信義の念を持ち連帯感を大切にする。	① 「花見まつり」や「宗教・公開講座」を開催し、地域の方々との交流を通じ、本校との連帯感を深める。	総務 保健体育 生徒会 PTA	本校の教育活動が地域に A よく理解していただいている % B まあまあご理解していただいている % C あまりご理解していただけていない % D 理解していただけていない %	C・D評価が25%以上 において内容を検討 する。 <b>アンケートの実施なし</b>	「お花見まつり」では、自衛隊災害支援部隊の広報活動とコラボ開催となり、来校された方々は花見だんごに舌鼓を打ちながら桜を楽しんで頂いた。本年も「宗教公開講座」は中止となったが、コロナ解除を受け「ふれあい」を通して理解から支援へと繋がり、双方の発展に寄与することを願い、「地域に根ざした学校づくり」を推し進めていきたい。
	② 登下校時、通学路として使用している学校周辺道路を、全校生徒で清掃活動を実施し、行政企画の「わが町美化ピカ隊」への参加とする。	総務 全学年 (PTA)	奉仕活動に対して生徒の自己評価は A 積極的に取り組めた % B まあまあ取り組めた % C あまり取り組めなかった % D 取り組めなかった %	C・D評価が30%以上 において内容を検討 する。 <b>アンケートの実施なし</b>	3月に近隣通学路の「ゴミ拾い」活動を実施している。近年では自主的に部活動単位で活動の輪が広がりがつづめる。「奉仕のこころ」を説き、定期的に早朝の粟津駅周辺のゴミ拾いを行ったり、また積雪時には津波倉町の生活道路や粟津小学校通学路の除雪を行い、多くのお礼と共に生徒達の奉仕の芽がしっかりと育まれているように感じる。
	③ 交通安全対策を積極的に推進するとともに、交通マナー向上に努める。また、蛍光タスキを配り夜間の安全を確保するとともに雨具の携行を義務づけている。	生徒指導 生徒会	交通マナー、モラルについて自己評価は A きちんとできている 74% B まあまあできている 23% C あまりできていない 3% D できていない 0%	C・D判定が10%以上 で指導体制を強化す る。 <b>A</b>	県警からの交通違反報告書では、並進が断トツで次に携帯・無灯火・二人乗り・イヤホン・右側通行と続き、並列では1年生の割合が多かった。低学年ほど交通被害の認識が甘く自分本位な一面もうかがえる。また高速自転車の利用者も増え、交通状況や他者に目を向け状況判断に気を配り、命の尊さに気づく指導を継続していきたい。
	④ 危機管理意識を高め、事故防止と発生時の対応に万全を期す。また、頻発する自然災害に対し、防災教育を見直していきたい。「三大訓練の実施」	総務 保健体育 生徒指導	危機管理に関する校内教員研修・訓練を A 年間3回以上行った B 年間2回行った C 年間1回行った D 行わなかった	C・Dにおいては日程 ・内容を検討する。 <b>B</b>	意識調査では「非常時の対応や避難行動を学ぶよい機会となった」と9割の回答があった。また、訓練とはいえ私語もなく速やかに行えたのも、先生方の事前指導の賜物と言える。そして事後の反省も踏まえてマニュアルの再点検も行った。近年身近に起こる自然災害を目の当たりにして、さらに避難防災計画の見直しを繰り返していきたい。
	⑤ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことで、生徒の様子を直にご覧いただき、保護者との連携・支援を図る。	総務 生徒会	本校の教育活動を A よく理解することができた 43% B ある程度理解することができた 49% C あまり理解できなかった 6% D 理解できなかった 2%	C・D判定が15%以上 で日程・内容を検討 する。 <b>B</b>	今年度もコロナ禍の影響で「保護者の教育活動に参画する機会」を設ける機会が少なかった。その中でPTA主催「教育を考える集い」では、昨年同様にPTA役員の方々を対象に、特色ある教育の一つである宗教の公開授業を開催した。生徒達が受けている授業を目の当たりにして、浄土真宗の教えを垣間見ることが出来たと好評を頂いた。
3 学校関係者評価委員会の評価	地域と共に生きる様子が野球部の除雪作業の生徒達の姿を見て改めて感じる。お互いの存在を尊重し奉仕の芽を育んでいる素晴らしい活動である。その思いをこれからも遠慮なく進めて頂きたい。また、『教育を考える集い』では、宗教の授業がこんなに面白いとは思いませんでした。教材に対して他の保護者の方々の意見を聞くことで改めて自分自身に向き合うことができ、これが授業の求めているところだと理解することが出来た。ようやくコロナ禍の感染対策の緩和にともない、さらにPTA活動の活性化と教育活動に参画できる体制を整えていただきたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	実現状況の達成度判断基準	判定基準	分析(成果と課題)及び次年度の展望(改善策)
4 生徒会活動、部活動への参加意識を高め、自主・自立・協調の精神を育成し、心身の健全な発達を目指す。	① 部活動の活性化を通じて、生徒の自主性や自立心の育成を目指す。一年生の全入部制を謳い活動内容の充実・向上を図る。	生徒会 第1学年 学年	指導方針や活動内容に満足していますか A とても満足している 51% B まあまあ満足している 29% C あまり満足していない 4% D 満足していない 1% E 所属しているが、参加していない 5% F 所属していない 10%	C・D評価が10%以上 において指導体制を 検討する。  <b>A</b>	部活動入部率94%(4月現在・運動部61%・文化部33%)とともに、活動に対する生徒達の高い充実度が伺える。近年、高等学校の質の高い指導を求め関心を抱き、技術の習得や記録に挑戦しようとする生徒達が増えてきたように感じる。課外活動は自分自身の成長を求め、仲間や指導者とのふれあひがあり、授業とは異なる生徒間の理解や人間関係を構築する場となり、明るく充実した高校生活の展開に大きな役割を果たしてくれている。 (運動部14 / 文化部10 / 社会体育3 / 社会文化1)
	② 生徒一人ひとりの生徒会活動への参画意識を高め、生徒達自らの意見を十分取り入れた活動を行う。	生徒会 学年	今年度通して委員会活動についてどう思いますか? A よく活動している 31% B まあまあ活動している 48% C あまり活動していない 18% D あてはまらない 3%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。  <b>B</b>	後期は委員会活動に対する意識調査を行い約2割が「あまり活動していない」との回答であった。もっと生徒が誇りを持って、自ら過ごしやすい学園生活を求め様々な活動に取り組ませることで、生徒達に「生きる力」として社会性や指導性を身につける委員会活動を目指していきたい。また前期では執行部が中心となり、コロナ禍の制限付きのなか学園祭を意義をもって楽しむことが出来た。
	③ 公安・保健委員会による挨拶・交通安全啓発活動やコロナ感染対策の呼びかけなど、生徒達自らが行動に繋げられるよう働きかける。	生徒会	規範意識を身に付けられるよう A きちんとできている 57% B まあまあできている 30% C あまりできていない 12% D できていない 1%	C・D評価が30%以上 において活動のあり方 を検討する。  <b>A</b>	「自転車通学」や「公共交通機関の利用」または「感染対策の遵守」の意識調査した平均値である。規範意識は学校生活の中で育まれるものであり、常に目を向け、時にはその意義を説き、できなければ諭し何度も取組ませ判断力や行動力を再確認し、自己規制能力や主体性を身に付けさせる事を大切にしている。概ね意識の高さを感じることが出来たが、そうでない少数派にも目を向け求めていきたい。
	④ 鑑賞や創作を通して情操陶冶と健やかな人間形成に役立てる。	生徒会 国語科	豊かな感性を育むことに A とても役立った 47% B まあまあ役立った 44% C あまり役立たなかった 4% D 役立たなかった 1% E 不参加 4%  文化教室・短歌俳句大会の平均値とした	C・D評価が25%以上 において活動のあり方 を検討する。  <b>A</b>	文化教室[音楽鑑賞ジャズ] 短歌・俳句大会 A とても楽しめた 50% A とても楽しく取組めた 39% B まあまあ楽しめた 36% B まあまあ楽しく取組めた 50% C あまり楽しめなかった 2% C あまり楽しく取組めなかった 6% D 楽しめなかった 0% D 楽しく取組めなかった 1% E 不参加 8% 文化教室において一部鑑賞マナーに残念な思いが残った。鑑賞の楽しさや意義を説き事前事後指導をもって改めていきたい。短歌俳句大会では、上級生で創作を楽しむ様子が年々高くなってきている。
4 学校関係者評価委員会の評価	部活動とは運動及び文化活動の自分自身の趣味を活かし、教養を高め、豊かな人間性や身体の発達を養うものであり、社会に順応できる生徒の育成にはなくてはならない活動だと思う。辛い経験や達成感が喜びとなり、それらは高校生活でしか得られない財産であり、今後の入部率が100%に近づくよう願っております。生徒会活動では執行部のメンバーだけでの活動にならないように、全校生徒が主役となるような活動を期待します。最後に、日頃より先生方の指導に敬意を表しますと共にお礼を申し上げます。本当に有難うございます。今後も生徒達が充実した高校生活が送れるように御指導宜しく願います。				







